令和6年度 中西中学校研究全体計画

R6.6.14

中西中学校研究部

1．研究主題

自分の思いを伝え、関わりながらともに高めあえる生徒の育成

～ 認め合う学校づくりを基盤として生徒全員の学びを保障する ～ (3年計画の1年目)

今年度のスローガン『シェア』

2．研究主題設定の理由

本校の今年度の学校教育目標は「自分の思いを伝え、関わりながらともに高めあえる生徒の育成」である。めざす生徒像は以下のとおりである。

(1) 夢をもち、自己を磨く生徒　「自立」

(2) 自他のよさを認め、尊重する生徒 「共生」

(3) 学びに興味関心をもち、主体的に思考する生徒「探究」

この生徒像の実現にむけて、道徳教育を中心として、さまざまな教育活動を通して、自分の思いを伝えたり相手の思いを受けとめたりできる生徒の育成を進めていきたいと考えている。このような、お互いを認め合う学校づくりが基盤となり、主体的・対話的で深い学びへつながっていくと考えている。

小規模の本校では、固定化した人間関係ゆえに、軋轢や人間関係のトラブルを回避しようとして、他人の目を気にして意見を言わなかったり、「この人はこうだから」と決めつけて相手の意見を柔軟に受け止められなかったりする傾向がみられる。近年、ペア・グループ活動を意識的に取り入れ、学び合い、教えあう姿が少しずつ見られるようになってきた。しかし、安心して意見を言い合える支持的風土に基づいた、主体的で対話的な学びの雰囲気にはなりづらい現状である。

また、全国学力検査、島根県学力検査、益田市学力調査において、教科間で得意・不得意のばらつきがあり、文章題や書くことに対する意欲の低さや数学に対しての苦手意識がある。昨年度の保護者アンケートからは、家庭学習の取り組みが少ないという回答が増えており、生徒自身の意識調査や学習時間調査（学力調査やメディアコントロール週間）でも、家庭学習への意欲の低さが課題として残っている。

全教科でペア・グループ学習を引き続き実施し、お互いに聴き合う関係づくりを行ったり、ICT を活用して思いを発信しやすい環境づくりを行ったりしながら、お互いの思いを共有しながら、対話的・主体的で深い学びができる集団を作っていきたい。また、家庭学習の習慣を身につけさせるためには、わからないことがあったときに自分で調べるためにはどのような手段があるかを教員が提示して一緒にやってみたりするなど、情報活用能力の育成を意識した取り組みを進めていきたいと考えている。

3．研究仮説

(1) 特別な教科道徳の授業を中心として、学校教育全体で、自分の思いを伝えたり相手の思いを受けとめたりする場を設けることで、お互いの思いを共有する風土が育ち、主体的・対話的で深い学びへとつながるだろう。

(2) 授業のふりかえり用紙を各教科で活用し、生徒や職員で思いや考えを共有し、次の授業へとつなげていくことで、指導と評価の一体化を図ることができるであろう。

(3) 家庭学習の習慣化をめざし、わからないことを自分で調べて課題解決を行うことができるような情報活用能力を育成すれば、学びに向かう姿勢がより身につくであろう。

4．研究の視点

(1) 道徳教育の充実による、授業の基盤となる支持的風土の醸成

(2) 指導と評価の一体化

(3) 情報活用能力と家庭学習の連動

5．研究の手順

・実態把握（R）: R5年度県・市学力調査、R5年度学校評価、生徒・保護者・教職員のアンケート結果

・計画（P） : 研究テーマの策定、年間計画の立案、評価計画の作成（いつ、何で、評価指標は?）

・実践（D） : 研修職員会による共通理解、訪問指導、一人一公開授業と協議

・評価（C） : 生徒・保護者アンケート、教職員の自己評価（ﾁｪｯｸﾘｽﾄ）、県学力調査、全国学力調査、アセス（1学期・2学期）、学校評議員による評価

・改善（A） : 一人一授業後の授業研究の活用、夏季研究職員会、冬季研究職員会、月一回の研究職員会

6．学力育成への取組

(1) 授業の基盤となる支持的風土を作り、主体的・対話的で深い学びなるようにしていく

①相手の思いを受けとめ、自分の思いを伝える。相手の思いを尊重しながら対話する。

② ICT などのツールを使い、発信しやすい環境を作る。出てきた考えを共有する。

(2) 情報活用能力と連動させて家庭学習の充実を目指す。

① わからないことがあったときに自分で情報を収集して解決できるようにする。

(3) 指導と評価の一体化を目指す

① ワークシート・ふりかえり用紙の活用

- 授業終わりに、わかったところや分からなかったところを書かせる。担当者がチェックし、次回の指導に活かす。授業内に考えたこと（ワークシート）を共有できるような掲示の工夫をする。学期末、学年末に、生徒自身に自分の理解や思考の変容を振り返らせる。

7．研究組織

研修職員会

環境づくり推進部	道徳教育推進部	家庭学習推進部
各学年部・ 研究部 〇思いを伝え、受け止める活動を意識した授業づくり 〇良好な人間関係づくり	研究主任・道徳教育推進教員・管理職 〇道徳教育の充実と推進	学級担任・各教科担当・研究部・情報教育担当 〇家庭学習の充実を図るための手立てを模索する

8．年間計画予定表

（ア） 一人一授業公開

① 原則として、月曜日に実施すると、協議等の時間が確保できる。

② 共通の協議になるように、共通のねらいを持った授業を行う。

③ 授業デザイン・授業参観カードなどの共通化と簡略化を進める。

（イ） 人権・同和教育

① 人権参観日・人権集会

② 人権・同和教育研修

（ウ）研修職員会

月日	研修内容	担当
4 月	研究計画、一人一授業公開等の説明	研究主任
5 月	一人一授業公開&研究協議 市教委学校訪問 特別支援教育に関する研修	研究主任 特支コーディネーター
6 月	一人一授業公開&研究協議 特別支援教育学校訪問	担任、管理職、特支コーディネーター
7 月	一人一授業公開&研究協議	
8 月	LGBTに関する研修（案）	人権・同和教育担当
9 月	一人一授業公開&研究協議	
10 月	一人一授業公開&研究協議	
11 月	人権・同和教育（人権参観日に向けて）	人権・同和教育担当
12 月	一人一授業公開&研究協議	
1 月	一人一授業公開&研究協議	
2 月	次年度に向けて	全職員、研究部

9．研究成果の検証方法

①生徒アンケート、保護者アンケート

②教職員の自己評価（ﾁｪｯｸﾘｽﾄ）

③県学力調査、全国学力調査、アセス

④学校評価、学校評議員による評価

以上の資料を通して検証して改善していく。